

■城野宏 中国山西省に配属、＜敗戦＞後、閻錫山の軍指揮して人民解放軍と戦い、最後の戦犯、帰国後も特異な活動。

じょうのひろし

大正政変・・・1913＝ 長崎市西山町で、生まれる。

水平社結成・・・1922＝ 9歳：

金融恐慌・・・1927＝14歳：長崎師範付属小学校を卒業。

満州事変・・・1931＝18歳：

五一五事件・・・1932＝19歳：東京府立第四中学校を卒業。

芥川直木賞始1935＝22歳：名古屋第八高等学校を卒業。東京帝国大学法学部に進み、

二二六事件・・・1936＝23歳：中国に開眼、東大で中国語を学んだ最初の学生となって、

日中戦争始・・・1937＝24歳：

健保+総動員1938＝25歳：卒業。野村合名会社調査部に唯一の新入社員として入社。郭沫若の「中国古代社会研究」を翻訳中、徴兵にされ、東京第1師団歩兵第1連隊に入り、中国山西省の第一軍司令部に配属される。

大政翼賛会・・・1940＝27歳：

日米開戦・・・1941＝28歳：*陸軍中尉となり、第1軍参謀部に転じる。山西産業の河本大作と出会い、山西省政府補佐官になる。

敗戦・・・1945＝32歳：太平洋戦争終了後、祖国復興の資源確保のため、山西独立をスローガンに、李誠の名で、閻錫山の山西野戦軍(約50万人)を指揮して、日本軍残留部隊(約15000人)と共に、毛沢東が率いる中国人民解放軍と戦う。

三大事件・・・1949＝36歳：*来訪したアメリカのヘラルド・トリビューンの記者と、閻錫山とともに会見して、ライフ誌に大きく掲載され、その翻訳を読売新聞が掲載してまもなく、山西省郡太原が陥落し、中国人民解放軍の捕虜になる。

国連加盟・・・1956＝43歳：中国人民共和国特別軍事法廷で禁固18年の判決。監獄生活を送る。

インスアトラマン・・・1958＝45歳：

東京リベンジャ 1964＝51歳：*釈放され、最後の中国戦犯として、帰国。

美濃部都知事1967＝54歳：「山西独立記念」を刊行。

霞ヶ関ビル・・・1968＝55歳：「中国の発想」を出版。

全共闘ビル・・・1969＝56歳：城野経済研究所を設立。

大阪万博・・・1970＝57歳：日本のトップ企業からなる経済使節団を組織し、アラブ連盟を歴訪。エジプトのサダト大統領やアラブ各国首脳人とも会談。日本アラブ協会副理事及び副会長。財団法人日本教育文化協会を発足し、理事長。産業新潮社会長に就任。

ドルショック・・・1971＝58歳：「日本からみた中国」を出版。

沖縄返還・・・1972＝59歳：「情勢判断学」を出版。

石油ショック1973＝60歳：「第3の経済学」を出版。

角栄金脈辞任1974＝61歳：「性と権力の書・古事記」を出版。

クランブル事件1975＝62歳：財団法人スポーツ会館理事長に就任。「日本経済の構造」を出版。

田中角栄逮捕1976＝63歳：

JALハイジャック・・・1977＝64歳：「脳力開発のすすめ」「産業観念の根本転換」を出版。

成田衝突・・・1978＝65歳：以降、「情勢判断の実践」「情勢判断の行動学」「転機の行動学」「挑戦の行動学」「近代中国は生まれるか」「美しい日本石版画集」「祖国復興に戦った男たち」「獄中の人間学」「城野宏画集光と影」など、続々出版し、アメリカ第5空軍佐官らに、「三つのシークレッツ」と題して講演。

中曽根内閣・・・1982＝69歳：{情勢判断の方法}の定期刊行を始め、後に{月刊脳力}を発刊。

ドイツワールド・・・1983＝70歳：日本工業倶楽部で{人間学シリーズ}の講演会を始め、「三国志の人間学」以後、その記録のテープ・書籍が刊行される。「護身道」「城野宏戦略三国志」を出版。第1回戦国合戦イベントを開催し、

ジャンボ機墜落1985＝72歳：*財団法人スポーツ会館会長就任したが、呼吸不全のため、没した。